

一般的に甲殻類と呼ばれている節足動物門甲殻綱（または甲殻上綱）に属する生物種は非常に多岐にわたっており、分類群や種も多く、鳥根県内における甲殻類の全体像については、報告されたものもなくほとんど分かっていない。また、よく知られていると思われるエビやカニの仲間に限ってみても、まとまった報告はわずかしがなく、未解明の部分が多い。このような現状から、このたびのしまねレッドデータブック掲載種の選定に当たっては、甲殻類のうち比較的知見が得られている淡水域および汽水域（その周辺陸上域）に生息する十脚目と等脚目に限って選定を行った。

十脚目甲殻類について

十脚目甲殻類は、エビやカニなどの仲間で、国内では約2,200種が報告されている。その形態や生態は多様であり、生息環境も海域（潮間帯から深海まで）、汽水域、淡水域などさまざまである。

鳥根県における十脚目甲殻類については、これまでにまとまって報告されたものはあまりみられないが、近年、県東部を中心に潮間帯や沿岸域、汽水域およびその周辺陸上域、淡水域に生息にする種類についていくつかの報告がされるようになってきている。しかしながら、それらも県内の十脚目甲殻類の一部の種類に限られたものであり、未だ詳細についてはよく分かっていないのが現状である。県内の淡水産エビ類については、淡水エビ類の研究者でもある元鳥根大学教授の故上田常一博士（1903～1981年）の報告や標本があり、1940～1960年代の分布については詳細な記録が残っている。しかし、その後の分布や生息状況については、若干の報告があるのみで現状を把握することは難しい。

前回のしまねレッドデータブック掲載種は、淡水産エビ類のミナミテナガエビ1種（絶滅危惧Ⅱ類）のみであった。これは県内の十脚目甲殻類について情報不足や調査不足から過去における生息状況と、現状とを比較することが難しく、絶滅の危惧等について判断できるだけの情報がそろっていなかったことに起因している。今回の改訂にあたっては、淡水産エビ類のほかに汽水域およびその周辺の陸上域に生息するカニ類についても重点的に調査を行い、現状を少しでも把握することに努めた。

今回、新しくリストに選定されたのはハマガニ、タイワンヒライソモドキ、ベンケイガニ、フタバカクガニ、マメコブシガニのカニ類5種、ヒラテテナガエビ（ヤマトテナガエビ）、トゲナシヌマエビ、ヤマトヌマエビ、

ヒメヌマエビ、ミナミヌマエビのエビ類5種の計10種である。このうち、河口部の土手などに巣穴を掘ってくらしているハマガニは、鳥根県東部、隠岐諸島の限られた地域にのみ生息し、生息数もきわめて少ないことから絶滅のおそれが高いと考えられたため、絶滅危惧Ⅰ類とした。また、ベンケイガニ、マメコブシガニ、ヒラテテナガエビ、ヤマトヌマエビ、ヒメヌマエビは、生息地での生息数が少なく、今後、生息条件の悪化が進むと絶滅のおそれがあるため準絶滅危惧とした。また、ミナミヌマエビは県内全域で比較的多数の生息が確認されているエビであるが、近年、外国産の近似種のエビが県内においても確認されており、交雑による遺伝子汚染の影響を受けている可能性が考えられるため準絶滅危惧に選定した。タイワンヒライソモドキ、フタバカクガニ、トゲナシヌマエビは、生息数は少ないが、近年、県内での生息が確認されるようになった南方系種であり、今後も新たな生息地が確認できる可能性が考えられるため、情報不足とした。なお、前回の改訂で掲載されたミナミテナガエビは、隠岐島後の一部の小河川でしか確認されず絶滅危惧Ⅱ類とされていたが、今回の改訂調査の結果より、県本土の河川の比較的広範囲に分布していることが明らかになったため、準絶滅危惧へと変更した。

汽水域から淡水域に生息する身近な甲殻類については、人間の生活に密着していることも多く、その生息環境は人間活動の影響を強く受けやすいことから都道府県版のレッドデータブックに掲載されるようになってきている。鳥根県産十脚目甲殻類に関する調査は県西部や隠岐諸島の情報が少ないなど、未だ不十分なところが多いため、今後はより詳細な調査と正確な情報収集を行い、現状を把握するとともに、保護を要する種については専門家の指導にそった適切な対策をとることが必要である。

（桑原友春）

等脚目について

鳥根県産等脚目のファウナに関するまとまった報告は、陸産種15種の記録を整理した山内・布村（2003）のみである。同論文によると、良好な自然海岸の指標種とされるニホンハマワラジムシとニッポンヒイロワラジムシの記録が隠岐島後にみられる。この2種は全国的な希少種で、千葉県、鳥取県、山口県といった他県のレッドデータブックにも掲載されている。陸域以外の種について、まとまった報告はみられないが、鳥根県の地下水で

から2種、宍道湖・中海から14種の等脚目が記録されている。しかし、海産種のファウナがほぼ未解明な状態にあるなど、一般的に島根県産等脚目のファウナ解明度は低く、今後、大幅な種数の増加が期待される。

島根県内を基準標本産地とする種には、シンジコスナウミナナフシ、ニシカワホラワラジウムシ、ニシカワハヤ

シワラジウムシ、そしてシロコシビロダンゴムシの4種がある。これらのうち、シンジコスナウミナナフシは宍道湖、シロコシビロダンゴムシは隠岐島後のみから記録されている。

(山内健生)

甲殻類掲載種一覧

計17種

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

○ハマガニ

計1種

準絶滅危惧 (NT)

↓ ミナミテナガエビ

○ヒラテナガエビ(ヤマトテナガエビ) ○ヒメヌマエビ

○ヤマトヌマエビ

○ミナミヌマエビ

○マメコブシガニ

○ベンケイガニ

計7種

情報不足 (DD)

○トゲナシヌマエビ

○台湾ヒライソモドキ

○フタバカクガニ

・シンジコスナウミナナフシ

・ニシカワホラワラジウムシ

・ニホンハマワラジウムシ

・ニッポンヒロワラジウムシ

・ニシカワハヤシワラジウムシ

・シロコシビロダンゴムシ

計9種

- ・ : カテゴリー区分変更なしの種 (6種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (1種)
- : 新規掲載種 (10種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (0種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (0種)